ナナカマド

社団法人旭川青年会議所 広報誌 2012

福島の子ども達を旭川へ!

東日本大震災復興支援事業開催

アイスアートビレッジ2012

第53回旭川冬まつり内で開催

第22回烈夏七夕まつり

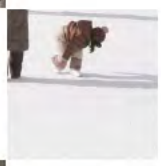
第51回旭川夏まつりの最後を飾るイベント

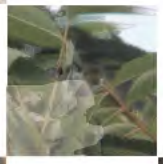
JCI 社団法人旭川青年会議所

2012年(平成24年)11月1日発行

Contents

- 2012年度を振り返って
- 事業の紹介
  - 東日本大震災復興支援事業
  - アイスアートビレッジ2012
  - 第22回烈夏七夕まつり
- 例会紹介
  - 1月第2例会 市長例会
  - 4月第1例会 会員研修
  - 5月第1例会 北海道JCフォーラム
  - 6月第2例会 PTSDについて
  - 9月第1例会 中心市街地について
  - 10月第1例会 マイスターボランティアの今後
- 協働している事業の紹介
  - たいせつマルシェ
  - 旭山動物園マイスターボランティア
  - 旭川ユナイテッドチルドレン
- メンバー名簿・編集後記
- 入会案内・メンバーインタビュー





広報誌ナナカマドの由来

1964 年、旭川青年会議所は、緑橋通の緑化運動を行い、ナナカマドを植樹しました。

ナナカマドの木は、現在ではイルミネーションで美しく飾られ、緑橋通の象徴となっていますが、この植樹が契機となり、1976 年ナナカマドが「旭川の木」として制定されました。

以上のことからナナカマドは旭川青年会議所の歴史を作った木でもあり、機関誌の名前も「ナナカマド」とされました。

2012年を振り返って

「明るい豊かな社会」の実現という理想を持った我々青年会議所の運動は進化し続けなければなりません。単に現状から変わらないということは単なる停滞であり、退化に等しい。

このことは人も組織も同じことであり、現状に満足するのではなく、常に前を向いて自らが積み上げてきた知識と、行動することにより得た経験を創造力へと昇華させることで、新しいものを生み出し続けなければ「変わらないこと」にはならないのであります。

2012 年度（社）旭川青年会議所は、2010 年代運動指針である「旭川 JC 宣言～夢ビジョン 2010～」を基軸に、「Keep our challenges and get the high top 変わらないために変わる、凛然とした誇りある旭川の創造の為に」のスローガンを原理とし、高みを目指し挑戦し続けるために、更なる進化を遂げ創造力の向上に努めて参りました。

本年は、62 年の歴史と伝統に基づく運動と地域に根ざした活動を展開することのみならず、あの未曾有の大参事である東日本大震災や原子力発電所事故から約一年、我々（社）旭川青年会議所は旭川地域を元気にすることだけを主眼に置くのではなく、東日本復興支援の一助として被災地や被災者に心を寄せ、あの悲しい出来事を風化させないためにも、また、被災地の子どもたちに笑顔を取り戻すためにも、何が出来るか…に挑戦しました。次代を担う子どもたちに明るい希望を与え、そして希望に満ち溢れた社会を創造することが我々青年に課せられた使命であり同じ identity を持った日本人にとっての責任であると私は考えます。

結びに、青年会議所は青年の学び舎として真摯に学ぶところであり、そこで得た知識や経験を知恵に変え、想像力を鍛えることで目的と手段を理解し、如何なる場面においても正しい判断力と力強い行動力を発揮することができる主導力を養い身につけられる場であります。自らがリーダーたらんとする気概を持って行動できる環境と自らの人生をも変えうる学びの機会、そして、ともに励み、励まし、生涯高めあえる貴重な仲間がそこに集っています。そのことは JC の三信条である「修練・奉仕・友情」が物語っているとおり、己を律し行動する JAYCEE の凛然たる姿が市民を魅了すれば、必ずや地域は変わっていきます。

我々は、市民、行政、企業を有機的に連係させるインターミディアリーな立場で、今後も地域に根ざした運動を展開し、「生き抜く力」と「生かされていることへの感謝」がみなぎる社会こそが、私たちが創造するべき「明るい豊かな社会」なのであります。

社団法人旭川青年会議所
2012年度　第62代理事長
嶋岡 寛之

2012年度スローガン

Keep our challenges and get the high top
変わらないために変わる、
凛然とした誇りある旭川の創造の為に

福島っ子・旭川っ子 ずっと友達！ おもいっきり夏休み in 旭川

東日本大震災復興支援事業

8月 7 ― 12

8 月 7 日から 12 日の 6 日間、東日本大震災復興支援事業として、被災地である福島県在住の福島の小学 4 年～ 6 年生 28 名の子ども達を旭川市へ招き、旭川在住の同学年の 32 名の子ども達との交流をしました。

旭川の家庭へのホームステイで福島と旭川の子ども同士の友情を作り、農場体験や木工体験を通じて自然の大切さ、カレー炊事で共同で作業するチームワークを学び、他にも流しそうめんやそば打ち体験などのさまざまなレクリエーションや屋外での遊びを通じて、おもいっきり太陽の光を浴びて、おもいっきり屋外で体を動かして、体も心もリフレッシュし、たくさんの思い出づくりをしました。

楽しい思い出いっぱい。

受け入れ式！

旭山動物園

農場体験

カレー炊事！

JoyFull実行委員会の様子

JoyFull実行委員会とは

東日本大震災の復興支援の一環として、この遠い旭川の地からでも震災を経験した仲間の心に寄り添い、その復興への手助けをするため JoyFull 実行委員会と銘打たれて復興支援プロジェクトが発足しました。

このプロジェクトは、次代を担う子ども達の心身の豊かな成長を願うとともに、福島と旭川の架橋をつくることで共に共有し生きるという「絆」を創造することができることをここに提唱したい。一人でも多くの子ども達に、生きる喜びや将来への希望を持てるよう支援して、子ども達の笑顔がたくさん溢れる時間を提供したい。旭川 JC メンバー全員がそんな共通の意識を持ち、一眼となり、発足から実施まで約半年間さまざまな忌憚のない意見がかわされる場となりました。

思いっきり遊んだ夏休み。

ICE ART VILLAGE 2012

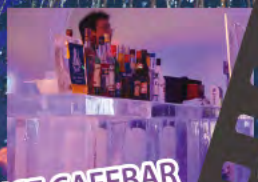
～わくわく Winter Attraction!～

第53回 旭川冬まつり 2.8wed-2.12sun

２月８日～２月12日までの５日間、旭川冬まつりが開催されました。

今年の目玉は15メートル級の特大アイスドームと、長野県班尾高原みゆき野で行われた北欧映画祭「みゆき野映画祭 in 班尾2012」のサテライト会場として、旭川冬まつりに北欧の雪のスクリーンを再現・制作し、ドーム内では北欧短編映画の上映などが行われました。

MR.ゼロによるマジックショー


ICE CAFEBAR（旭川バーテンダー協会）

コールモルゲンによる合唱（北海道教育大学付属旭川小学校）

アイススクリーン！

金管アンサンブル（旭川市消防音楽隊）

アイスシアター

親子で楽しめる体験氷彫刻

たいせつマルシェコーナー

アイスドーム製作工程

土台作成・バルーン

ドームに放水！

-10℃以下で雪を散布

氷の厚みを計測

バルーンを取り除く

装飾をして完成！

67名のボランティアスタッフの皆様

今年もアイスドームに市民の方々による制作ボランティアスタッフとJCメンバーが一丸となり、旭川市消防本部の多大なるご支援を頂き15メートル級のアイスドームを完成させることができました。

ドーム内では北欧の短編映画上映やアイスカフェ、消防音楽隊による金管楽器を使ったコンサートなどの催しが行われ、ドーム横に設置された雪のスクリーンでも様々な映像を映し出しました。

夜のアイスドーム

消防本部のご協力

旭川の顔になる新しい夏祭りを百年後に伝えよう。

YOSAKOI

迎え太鼓

フィナーレの
織姫＆彦星 天の川物語

2012 年で 22 回目を迎えた烈夏七夕まつり。1998 年から「市民が参加する市民のまつり」をキーワードに旭川青年会議所が一丸となり取り組んできました。

今年の大きな取組みとして行われたのは、市民ボランティアの方々が参加する市民ボランティア山車が初登場。

さらにフィナーレには「織姫＆彦星 天の川の物語」なるカップル企画が復活しました。

第22回 烈夏七夕まつり

「今、始まる烈夏伝説・・・」

1990 年に旭川市開基 100 年目の翌年に「旭川の顔になる新しいまつり」として誕生した烈夏七夕まつり。

今後もより一層市民に根差したまつりづくりをキーワードにし、「子供たちの育成」をふまえ次世代の子供たちに受け継がれるよう参加して頂き「ともに喜びや感動をわかちあい思い出に残るまつり」にしていきたいと思います。

実行委員長
石黒 裕規

烈夏七夕まつり準備風景

烈夏七夕まつりを開催するまでに、約4ヶ月の期間をかけて作り込みが行われました。

烈夏七夕まつり
実行委員会の様子

伝統の白半纏
引き継ぎ式

山車と行灯の補修

（社）旭川青年会議所 2012 年度の例会紹介

1月
30

1 月第 2 例会　市長例会　　地域経済活性化委員会

更なる進化を求め主張しよう！市長例会！

更なる高みを目指すため「変わらないために変わる」必要が迫られている中、明るい豊かな社会の実現を目指し、常に創造し進化をとげるためには、市政の方向性を理解し、お互いのビジョンを確認し合う必要があると考え、本例会を実施しました。

市長と対等の立場で、意見交換を交わす事によりメンバー一人ひとりの意識向上とモチベーションアップが図られるとともに、市長へ我々のビジョン、活動内容などをアピールできる例会になりました。

近年、毎年恒例となっている、この市長例会のもう一つの醍醐味としては、年頭から市長とメンバーとが親睦が深められ、また、新会員にとっては市長との名刺交換も行える貴重な体験となりました。

4月
25

4 月第 1 例会　　会員開発委員会

Hello Coliseum 2012 ～熱意と正論を持ってぶつかり合おう！～

今年度、理事長所信にある「変わらないために変わる」ためには何が出来るのかを考え、メンバー一人ひとり自身の意見をぶつけ合い、精査していくことによって変わっていく。

メンバーが抱える想いを仲間に効果的に伝え合うことも重要であり、積極的かつ建設的な意見交換を必要とし、地域社会において次代を担う立場であることから個々のスキルアップを図るためと対内の活性化にもつなげるべく本例会は実施されました。

○ディベートとは

定められたルールに従い対抗する二組の間で議論を戦わせることにより一つの論題に対して、理論的、理性的判断を下すことを目的としたもの。

5月
20

5 月第 1 例会　公開フォーラム　　公益社団法人日本青年会議所　北海道地区協議会

第 1 回北海道ＪＣフォーラム

このフォーラムは私たちが現在直面している様々な問題に対して参加者の皆様とともに正面から向き合い、考えることを目的として行われました。安全保障の最たるエネルギーや食糧をどう将来的に担保していくのか、憲法は領土問題に我々はどのように関わっていくべきか、災害に強い安心・安全な社会とはどういったものなのか等の問題の提起を各６つのフォーラムとして同時開催いたしました。

その中には、女優の菊川怜氏を招いたトークセッションやコーディネーターに田原総一朗氏を招いたエネルギーフォーラムなどが行われ、数多くの一般来場者も集まりました。

例会は自己の学びや発信だけでなく、旭川 JC の目的や理事長の所信、付随するさまざまな知識や意識の共有化を図り、明るい豊かな社会の実現に向けて皆で一つの方向に一体となって行動していくための場でもあり、JC 運動の要であり源であります。

6月
16

6 月第 2 例会　公開例会

青少年育成委員会

子どもの心に思いやり ～学ぶことは支援の為の第一歩～

阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件以降、トラウマ（心的外傷）や PTSD（心的外傷後ストレス障害）という言葉は災害、事件、事故をめぐる報道などでよく耳にするようになりました。

子どもの場合は、未発達で大きな衝撃に対抗できないため、影響を受けやすく、大人の症状とは異なり、目に見えない症状を表します。

東日本大震災でもテレビ画面を通じて被害の悲惨さを目にしている全国の子ども達が大きな恐怖を感じたことでその心のケアが必要になっています。

我々大人がその教養を高め、早期の予防と適切な対応を心がけられるような知識を身につけ、より多くの方々に知ってもらうため、公開例会として実施いたしました。

9月
3

9 月第 1 例会

地域経済活性化委員会

私達が、私達の為に本気で考える街づくり ～未来の変わらない旭川の為に～

本例会は、行政が郊外に広まった街をコンパクトにするべく、中心市街地活性化基本計画を掲げ「コンパクトシティ」の実現を目指している市の中心市街地活性化の３つの目的を踏まえ、独自の案で市街地活性化をさせることを提案し、魅力あふれる我が街旭川を目指すために行われました。

この例会を行い、視野を広げ様々な考え方を創造することができ、地域経済活性化の意識向上が図られました。

○３つの目標とは

1．中心市街地に訪れる人を増やす
2．中心市街地に住人の増加を図る
3．観光客の来街を促進する

10月
3

10 月第 1 例会

地域の魅力創造委員会

ここから始まる Next Step !～旭山動物園マイスターボランティアさらに一歩先へ～

本例会は旭川青年会議所が７年前から事務局となっている旭山動物園マイスターボランティアの活動紹介を目的としたもので、園内の案内や花壇の整備、イベント開催報告などが行われた他、動物園の環境教育プログラム「つながる輪いのち」では園内の農園で農作物栽培を体験したことを紹介。

また、実業高校自動車科生徒が旭山動物園の動物をイメージして製作した、電気自動車ポーラーを発表。札幌モーターショーに出品し、北海道ハンドメイドエコカーコンテスト 2012 にてグッドデザイン賞を受賞したことが報告され、旭川青年会議所の橋渡しでこのポーラーが市へ寄贈されることが決まりお披露目となり、本例会にて寄贈式が行われ、坂東園長へカギが手渡されました。この電気自動車は旭山動物園敷地内に展示されています。

(社)旭川青年会議所が協働している事業

旭川 JC が事業設立に携わり、現在はそれぞれ独立した団体として、それぞれの視点でのまちづくりを励んでいる事業です。

たいせつマルシェ

2008 年旭川ＪＣが旭川市へ「ものづくり戦略モデル」として提言した地域活性化政策が「たいせつマルシェ」です。

「食」を大切にする古くて新しいライフスタイルの提案を通じて、様々なコミュニケーションの創造を図り、豊かな地域社会の創造に向け、地域社会全体で取り組むための環境づくりを目指して始まりました。

当時はまだ地域マルシェというものが各地で一般化される前での開催でもあり、上川振興局・旭川市の後援の元「地産地消・スローフード」の隆興と一緒に話題をいただきました。

2010 年日本ＪＣからの表彰もさることながら、第二期旭川市政の目玉政策「北の恵み食べマルシェ」に発展しました。

たいせつマルシェ＆アートマルシェコラボ企画

北の恵み 食べマルシェ 2012

旭山動物園 マイスターボランティア

2006 年に活動がスタートし、早くも 7 年目を過ぎようとしています。オレンジ色のベストを着たスタッフが「生涯学習の場」として、“喜び”や“やりがい”を持って旭山動物園を訪れる来園者に対し、サポートを行っています。

今年は年間を通し、園内で行われたイベント時に多くの市内高校生や市民ボランティアを集め、より充実したサポートや、新しい撮影スポットの創出など、たくさんの笑顔が溢れる活動となることができました。

今後も旭山動物園を舞台に、市民が気軽に参加できるまちづくりや、多くの来園者のみなさんに楽しんで頂ける活動を目指しています。

旭山動物園マイスターボランティアの様子

折り鶴指導　　旭山動物園内壁面緑化

旭川ユナイテッドチルドレン

ユナイテッドチルドレン（UC）とは「未来の日本・世界を動かす人を創る」を理念とし、それぞれの地域に即した問題に中高生が中心になって取り組み、その活動を通して社会の抱えてる問題を知り、その解決が出来る人間へとメンバー一人一人が成長する場となっています。

旭川ユナイテッドチルドレン（旭川 UC）は、2009 年度に設立され現在、旭川市内の現役中高生 17 名のメンバーで活動しています。

UC 夏フェスの様子

アイスドームでのメロンパン販売

(社)旭川青年会議所 2012 年度 会員名簿

会員名	企業名
赤坂 英亮	(株)旭川たかすゴルフクラブ
浅見 仁博	(株)浅見設備
飯塚 正浩	たいせつ法律事務所
石川 泰路	サンプラン
石川 正貴	(株)東和リサーチ
石黒 裕規	(有)イシグロ製作所
石田 慶嗣	学校法人菊枝学園
市川 範之	市川農場
稲田 良輔	(株)メディカルセンス
犬伏 和夫	(株)三輪商会
井上 雅之	(有)梅光軒
今津 寛介	衆議院議員今津ひろし事務所
入場 健太郎	キッチンサービス(株)
岩井 隆行	旭川駅立売(株)
内田 貴弘	日新テクノS.A(株)
海野 悠	(有)エイム
海老子川 雄介	(株)ライナーネットワーク
大西 康弘	(有)三景スタジオ
大矢 正彦	(株)ノースグリーン
尾形 智勝	セブンカフェ
落合 孝優	大城建設(株)
淤見 業途	(株)丸信旭川典礼社おみはなや
鏡 圭介	(有)旭川鶏卵
金津 美湖	(有)サクセスプランニング
上村 有史	(医)利信会上村産科婦人科医院
川島 和也	(株)ファスト
菊川 直人	(有)萃明
菊地 ミオ	edge - エッジ -
喜久野 夕介	旭川ふるさと旅行(株)
北崎 悌綱	(株)真英会ぽっかぽかグループ
北谷 憲市郎	(医)歓生会 介護老人保健施設 フェニックス
小関 聖人	金丸富貴堂(株)
小島 圭	(株)SP ソリューション
小林 大祐	石焼料理 菊善
小林 睦明	(株)ロワジールホテル旭川
近藤 耕介	(株)近藤染工場
近藤 博之	だいいち薬局　くすりのだいいち
齋藤 眞美	(有)エムケークリーン
斉藤 三寛	(株)アスクゲート
酒井 保則	(株)酒井鋼材
榊原 博史	(有)旭都電機工業社
櫻井 学	(有)ボデーショップサクライ

会員名	企業名
作家 孝幸	作家整骨院
澤田 真由美	(株)澤田企画
重原 拓司	重原整骨院
重原 浩貴	(有)椿サポート
篠原 智子	アイシングクッキー MOMODECO
嶋岡 寛之	嶋岡産業(株)
白井 雅人	(有)白井電設工業
助安 秀章	エス・ピー・ネクスト(株)
鈴木 慎吾	(株)オイルウェイサービス
鈴木 大介	北栄通信工業(株)
鈴木 英和	旭日日章建設(株)
高田 泰慎	晴和テクネット(株)
高橋 健太	(株)建創社
田中 圭祐	(有)ベスト保険サービス
田中 裕輔	大丸建設(株)
田村 総司郎	(株)総北海
蔦井 一義	(株)グローリーズデイズ
津山 旭	(株)津山ビル
土井 隆典	アライ地所(株)
外崎 裕二	(株)セーヴ・エナジー
富居 典弘	(株)ピープルケア
中井 章仁	カブトヤ薬局
中澤 史匡	(株)エヌケイコーポレーション
中村 光一朗	(有)中村葬儀社
西村 光	インプルーブメント(株)
西山 仁	西山坂田電気(株)
野嶋 壮一郎	司法書士野嶋事務所
長谷川 周弘	(有)丸長長谷川調理部
林 高辞	旭川だいいち保育園
平田 大樹	ヒロキ歯科医院
廣瀬 真希	(株)MASAKI
福居 裕二	(株)福居製餡所
藤井 昇	藤井測量設計(株)
牧原 史典	(株)五洋商会
松本 尚晃	サンピクチャーワークス
皆川 岳大	旭川総合法律事務所
南 智守	クーコミュニケーションズ(有)
村本 暁宣	(株)壺屋総本店
山賀 三碩	(有)マルシン
山添 宏基	(有)山添自動車学園
山田 大生	(株)酒商山田屋
吉岡 大	(株)ユニコロン

※2012 年 11 月現在

発行者　社団法人旭川青年会議所
〒070-0043
旭川市常盤通 1 丁目道北経済センタービル 5 階
TEL（0166）22-9815　FAX（0166）26-3235
発行人　理事長　嶋岡 寛之
編　集　広報・会員交流委員会　石川 泰路・長谷川 周弘
製　作　広報・会員交流委員会
印　刷　サンプラン

【編集後記】

広報・会員交流委員会　委員長　**石川 泰路**

（社）旭川青年会議所 2012 年度広報誌をご覧頂きましてありがとうございました。旭川 JC は 60 余年の歴史において、先輩から受け継がれている「旭川の明るい豊かな未来を創造」の為に、一眼となって運動を展開する中で、かけがえのない友情や絆を育みながら、様々な事業や自己啓発を行なっております。活動のほんの一部ではありますが、皆様に手に取りやすい形で紹介させていただきました。
我々の活動に、少しでもご理解を深めていただけると幸いです。

我々と一緒に活動しませんか？

JC は大きな可能性に向けての自己投資です。

他では得られない信頼関係と真の友情を育みながら、私たちのまち旭川の未来をつくりあげて行きませんか？

きっと、あなたの将来に大きな可能性を見出してくれます。

自分自身を高めるための修　練

社会とのつながりが深まる奉仕

ほかでは得られない友情と絆

JCI

青年会議所「Junior Chamber（略：JC）」とは

国籍・人種・性別・職業・宗教の区別無く、20 歳（旭川 JC では 25 歳）から 40 歳までの志の高い青年経済人によって構成されています。日本全国 701 の地域に約 35494 人（2012 年 7 月現在）の『修練』『奉仕』『友情』という三信条のもと、率先して行動する仲間がいます。

旭川 JC メンバーインタービュー

JC 運動を通じて、同年代の社会人達が、かけがえのない友情や信頼関係、自分自身の成長を実感しながら充実した活動をしています！

（株）酒井鋼材
専務取締役

酒井 保則

<2006年度入会>

2011年度 副理事長
2012年度 監事
（公社）日本青年会議所
北海道地区協議会 エリア担当副会長

私の父が JC に入会していた頃、幼少の自分をクリスマスの例会に連れて行ってもらっていました。そんな父の背中を見て将来は自分もやらなければいけないと思っていました。誘いを受けて 2006 年に入会した時に「JC はとにかく一生懸命やらないとわからない！」だから頑張ってみませんか?と言われた言葉を覚えています。入会後、色んな人との衝撃的な出会いが自分の考え方を変えるきっかけとなり、JC も仕事も、もっと頑張らないといけないと実感しました。異業種の方々の色んな体験談がなにより刺激になりましたし、しっかり活動していれば自分より人生の先輩である方々とも親密な関係を築くのに時間がかからないというメリットもあります。普通では中々出来ない様々な経験をさせて頂き、仕事にも反映出来る事がたくさんありました。それが JC です！

（株）ライナーネットワーク
副編集長

海老子川雄介

<2009年度入会>

2011年度 理事
夢ビジョン創造委員会 委員長
2012年度 指名理事
事務局 局員

いろいろとご縁があって勧誘され、あれこれ考えずに即、入会を決めました。忙しいしお金もかかるので大変だとは聞いていましたが、本人の姿勢と能力でどうにでもなります。ビジネスではローカルが主なフィールドですが、JC では、己が望めば、全道、全国をフィールドに活動ができ、活動を通じて幅広い人脈を構築でき、多様な価値観、刺激、気づきを得ることができます。そのような活動を通じて時間、組織、財務などマネジメントスキルが向上していることも実感しています。大学生時代に経済学や社会保障制度の研究を通じ「このままだと日本の未来はない」と思いました。高い次元でライフワークバランスをとりながら、自身のビジネスを通じて地域社会を豊かにしていくことはもちろん、JC 活動を通じて、新しい北海道、新しい日本の未来を作りたい。

重原整骨院

重原 拓司

<2008年度入会>

2011年度
まちの魅力発信委員会 副委員長
2012年度
青少年育成委員会 副委員長

私の父も JC の卒業生で、入会前から「青年会議所で出来た仲間は一生の仲間だ」と聞かされており、興味は持っていました。父と入会同期の先輩から声をかけて頂いたのをきっかけに考えるようになり、入会することを決めました。

入会して良かったことは、入会同期の仲間、同じ委員会になった仲間、一緒に研修を受けた仲間など様々な出会いがあることです。入会しただけで出会えるわけではないですが、積極的に活動していくことで本当に多くの素晴らしい仲間に出会えるチャンスがあります。

JC は、自分を成長させてくれる機会もたくさんありますので、その機会を逃さないように、少し背伸びをしながら活動して行こうと思っています。

（株）三輪商会
取締役管理部長

犬伏 和夫

<2012年度入会>

2012年度 新会員 会長

3～4 年前から勧誘を受けて断わっていましたが、取引先からの誘いという事もあり、また、内向きな自分の性格を変えるきっかけになると思い入会を決心しました。

1 年間新会員の会長を努めて、JC 運動を通じて色々な場面において皆で協力する事の大切さを実感しました。何かを依頼する時に命令になったり、下手になり過ぎても中々動いてくれなかったり。人に無償で動いてもらうことの難しさを改めて感じました。

楽しいこと、めんどくさいこと、つらいこと、いろいろありましたが、行動したからこそ、いろいろな体験ができました。ここでしかできない体験がたくさんある会なので、これからも積極的に行動したいです。

お問い合わせ先　TEL 0166-22-9815（社）旭川青年会議所まで